

笑顔通信



山口県議会議員 とくらたかこ | 県政レポート (号外)

こんにちは、戸倉多香子です。いつも暖かいご支援を賜り、本当にありがとうございます。新型コロナウイルスの感染が収まらず、憂鬱な日々が続きますが、少し気持ちが苦しくなったり、生活に不安を感じたりする時は、お気軽に、うちの事務所をのぞいてください。仮に私がいなくても、スタッフがおりますので、他愛のないおしゃべりで、気分転換できるかもしれません。国・県・市の支援策の申請方法等でお困りでしたら、お手伝いできることもあるかもしれません。ご遠慮なく、お立ち寄りくださいね。



上の写真は、8/12に開催された「第1回脱炭素社会における産業発展方策調査特別委員会」の様子。(議会での写真には珍しく笑っているのが掲載。)今後、地元企業等に対する調査視察等を行い、政策提言をとりまとめ、来年6月定例会において委員長報告される予定です。

常任委員会は、総務企画委員会を担当することになりました。秋野県議が辞任されたため、会派代表には井上県議、議会運営委員には私が就くことになり、責任の重さを感じています。(ウラ頁の写真は、7/1 議会運営委員会)

今年に入ってからの本会議での質問は、2月定例会と6月定例会で一般質問にたちました。昨年に引き続き、質問事項は新型コロナウイルス感染症への対応が中心です。2月定例会での質問内容は、別添の笑顔通信vol.12(準備号)でご報告しておりますので、ここでは、6月定例会での質問内容と答弁の一部を要約して、ご報告します。

新型コロナウイルス感染症対策に係る補正予算案について

【戸倉】 補正総額は、241億3100万円、このうち、239億1200万円が新型コロナウイルス感染症対策関連事業に係る補正予算です。4つの柱のうち「感染拡大の防止」に102億円、「県民生活の安定」に29億円、「県内経済の下支え」に65億円、「消費需要の喚起」に43億円(中略)。これらの支援策が一刻も早く、苦しんでおられる中小企業者に活用していただけるよう、本定例会で補正予算が成立し次第、各支援策の申請の受付が始められるよう、準備を急いでいただきたいと思ひます。

県内経済の回復と中小企業者の事業継続に向けて、これらの支援策を必要とする方々全員へ、一刻も早くお知らせし、手続きも複雑なものとならないように工夫を重ねながら、活用してもらうために、県はどのように取り組まれるのかお尋ねします。

【村岡知事】 感染症の長期化に伴う影響は、飲食業や観光業をはじめ、取引のある業者など幅広い業種に及んでおり、飲食等の関係団体からいただいた、事業継続や消費需要の回復に向けた支援の御要望をしっかりと受け止め、様々な支援策をこの度の補正予算に計上したところです。

具体的には、業種を限定せず、売上が大きく減少した中小企業者に対する支援金の給付や、飲食店や宿泊事業者、公共交通事業者など、コロナ禍の影響を大きく受けている分野の事業継続や消費需要の喚起を図ることとしています。

今後、こうした事業を実施していく上では、それぞれの事業の目的に応じて、テレビスポットやSNSの活用など広報媒体の工夫や、市町、商工団体等の関係団体を通じたPRなど、効果的な手法によって、支援策の情報が対象者に届くよう広く周知してまいります。

また、国や他県等で実施している類似の事業の実施方法や書類等も参考にするほか、WEB申請や添付書類の簡素化など、手続きについても効率化が図られるよう検討しているところです。



地域の経済と雇用を支え、まちの歴史や文化を紡ぐ店舗等への支援について①

【戸倉】 周南地域の地元誌における飲食店からのもう限界との声(新周南新聞の記事を資料として議場に配布)や、飲食団体からの要望等、この他にも多くの支援を求める声があったと思いますが、それらへの対応が、この度の補正予算まで、目に見えてこなかった理由についてお尋ねします。

【商工労働部長】 コロナ禍において、国においては、持続化補助金や一時支援金等による事業継続、雇用調整助成金等による雇用維持が図られています。県としては、こうした支援制度が十分に活用されるよう相談窓口を設置して対応するとともに、大幅に拡充した県制度融資による資金繰り支援などにより、中小企業者の事業が継続されるよう取り組んでまいりました。(中略・ウラに続く)

こうした状況や、国の事業者支援に向けた交付金の配分などを踏まえ、今回の補正予算において、事業者の不安を払拭し、事業継続や事業活動の活性化を図るための大胆な事業者支援を実施することとしています。

地域の経済と雇用を支え、まちの歴史や文化を紡ぐ店舗等への支援について②

【戸倉】 長く続いてきた店舗が、コロナの影響で、閉店していくのは、本当に残念でなりません。まちの歴史や文化を次世代につなぐ役割も担ってきた店舗の閉店は、県民にとっても損失であり、今後おきてくる人口減少による課題と同じように思えました。

まちづくりの課題や商店街、飲食店の存続など、これまで主に市町が担うべき課題とされてきたと思いますが、これらの課題は、人口減少問題への対応と同様、県も主体となって取り組むべき重要な課題だと思いますが、県のご所見をお聞きます。

【商工労働部長】 まちづくりや商店街振興等については、地域の実情に詳しい市町が中心的な役割を担うべき課題ですが、地域で活躍する中小企業、小規模事業者は、本県経済や雇用を支える上で重要な役割を果たしていることから、県としても、広域的・補完的・専門的な見地から、事業継続や新事業展開などの支援を行っています。こうした主旨から、今回、県独自の支援金の支給や、商店街が行うイベント開催等への支援を行うとともに、消費需要の喚起に向けて、クラウドファンディングを活用した様々な店舗の応援など、昨年を上回る規模で事業を実施することとしています。

水素の活用に向けた研究開発への支援について

【戸倉】 3月5日の「日本製鉄 CO² 排出量 2050 年実質ゼロに新たな製鉄技術研究加速」「水素を活用して製鉄する全く新しい技術の研究開発を行い、実用化する」との報道には大変驚きました。検索すると「日本製鉄グループ中長期経営計画」の「ゼロカーボン・スチールへの挑戦」に、100%水素による直接還元鉄製造は、前人未達の技術であり、極めてハードルの高いイノベーションが必要。約 5,500 億円の研究開発費、設備実装に約 4~5 兆円の投資を要する見込みとの記述。一方、茨城県の大井川知事は・・(中略) 今後、脱炭素社会の実現において、ますます注目されることとなった「水素」の活用に向けた研究開発への支援について、県はさらに拡大していく必要があると思いますが、知事のご所見を。

【商工労働部長】 国においては、グリーン成長戦略を策定し、14の重要分野の一つである水素・燃料アンモニア産業において、水素をカーボンニュート

ラルのキーテクノロジーに位置付け、その利用、輸送・貯蔵、製造の取組を進めることとされています。

県では、こうした国の動きと連携を図りながら、大量かつ高純度の水素を生成するという強みを活かし、水素先進県を目指した取組を展開することとしています。

具体的には、県産業技術センターに設置した「イノベーション推進センター」において(中略)、県内企業の低炭素技術開発等の取組を支援してまいります。

建設労働者への適切な賃金水準の確保について

【戸倉】 先日、9年連続して公共工事設計労務単価が引き上げられているのに、現場で働く建設労働者の賃金は変わらない、下請けで働く労働者も賃金が上がらない、引き上げられた設計労務単価が、現場の末端まで行き渡るよう県でも取り組んでほしいとのお声をいただきました。(中略)

県では、技能労働者への適切な賃金水準の確保等について、毎年、同じようにお願いが繰り返されていますが、効果が薄いのであれば、他の視点での取組も必要かもしれません。

建設業は社会資本整備の担い手であり、地域経済と雇用を支えています。(中略)現場を支える建設労働者への適切な賃金水準の確保ができていないことについて、県は、今後、どう取り組まれるのかお尋ねします。

【土木建築部長】 県では、建設労働者への適切な賃金水準を確保するため、毎年、公共工事設計労務単価を適切に見直すとともに、県内の建設関係団体に対し、建設労働者への適切な水準の賃金の支払いや、適正な額での下請契約の締結などについて、要請しています。(中略)賃金の引き上げができていない企業も一部見られることから、県としては、引き続き、建設労働者への適切な賃金水準が確保されるよう、こうした取組を行ってまいります。

質問内容や活動及び議会の状況のご報告は以上ですが、ご意見や質問等ございましたら、下記連絡先までご連絡ください。



山口県議会議員とくらたかこ | 県政レポート(号外) 2021.8.17
とくらたかこ事務所
〒745-0076 山口県周南市梅園町2丁目31番地
TEL 0834-32-6071 FAX 0834-32-3863

笑顔通信



山口県議会議員 とくらたかこ | 県政レポート (号外)

皆様のお支えがあればこそその10年表彰です。あらためまして、心から感謝申し上げますとともに、ご報告をさせていただきます。引き続き、皆様のお声を大切に県議会にお届けするために努力してまいります。



昨年11月16日 決算特別委員会

寒中お見舞い申し上げます。

皆様、あらためまして、あけましておめでとうございます。旧年中も大変お世話になりました。2022年も変わらぬご支援ご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



昨年12月13日 周南地域振興協議会より知事へ要望

今年はとても暖かいお正月でしたね。年末には、山口県での新型コロナウイルス新規感染者数がゼロの日も増えてきて、このまま収束してほしいと願っておりましたが、残念ながら岩国市を中心に感染が拡大し、1月7日には「まん延防止等重点措置」が適用されることが決定しました。

飲食店等の営業時間の短縮や酒類の提供停止を要請する対象区域は、岩国市と和木町ですが、周南地域の飲食店等への影響も大きく、予約のキャンセルも相次いでいるそうです。事業者の方からは、またまた悲鳴にも似た声があがっています。お店を開けていても、開店休業状態のため、それならば、「営業時間短縮要請協力金」の支給される対象区域してほしいとの要望もいただきました。

20日から山口県知事選挙が始まっていますが、村岡知事は選挙カーには乗らず、コロナ感染対策に注力すると聞いています。「まん延防止等重点措置」の期間延長やエリアの拡大について国と調整するとも報じられていますので、様々な動きに注目したいと思います。

山口県議会議員として「在職10年表彰」を受けました。心から感謝申し上げます。

昨年は、山口県議会議員として在職10年となり、11月定例会の初日には、議場において、同期の県議の皆様とともに、「全国都道府県議会議長会表彰」の伝達式がありました。また、17日には、「知事表彰」もいただきました。



「脱炭素社会における産業発展方策調査特別委員会」「決算特別委員会」も担当

昨年6月定例会から、議会運営委員会担当となり、常任委員会は、総務企画委員会に所属することになりました。また、脱炭素社会における産業発展方策調査特別委員会と決算特別委員会も担当しました。

11月15日からの決算特別委員会審査には、事前に担当者より聞き取りをした上で質問に臨み、様々な分野への理解を深めることができました。

脱炭素社会における産業発展方策調査特別委員会での議論は、コロナの影響で、予定していた企業訪問を見直す等、視察や聞き取り等も困難な状況ではありますが、地元企業のご協力をいただきながら、企業の置かれた厳しい状況等について直接説明を受けるとともに、意見交換等を実施しております。

カーボンニュートラルへの対応について 自民党県議よりご質問いただきました。

昨年の6月定例会から担当となった総務企画委員会は、経験豊富な議員の多い委員会でもあり、大変緊張して臨みました。野党側の委員もおらず、心細く感じていましたが、9月定例会での総務企画委員会の中で、自民党会派の委員のお1人から、カーボンニュートラルへの対応についての私の考えについてご質問をいただき、議論させていただきました。大変貴重な経験でしたので、そのやり取りを一部ご紹介したいと思います。(未定稿です。)

【自民党会派の委員】

カーボンニュートラルというのは、今、副委員長さんが言われたように、とても大きい問題であるわけですが、ずっと本会議等の質疑を聞いていて、山口県としては、どの方向でいけばいいのか。我が国の方向性、世界の方向性、どんどん変わっていますね。

そのような中で、まさに旧態依然の質問が続くような状況でもありますが、この脱炭素というのは、一歩間違えたら、山口県にとってみたら、危機的状況になるのは目に見えておるといっては、もう皆さん方、ご存知だろうと思うんです。

そこで、これはあえてちょっと戸倉委員にお聞きしたいんですが、例えば、電力は駄目、風力は駄目、原発は駄目と言っておられるけれども、どのような状況でこの山口県のこれから、デジタル化というのは相当の安定した電力を必要としますから、そういうことをどのようにお考えになっておるのかというのは、一度聞いておかないと、あなたは特

別委員会の委員でもありますから、この大変な委員会でありますから、ちょっと申し訳ないけれども、そのあたりお聞きしたいんですけども。

【戸倉多香子委員】

はい。いいご質問をいただきありがとうございます。

私も、先日から脱炭素のことについては、特別委員会で議論させていただいていて、うちの会派も、代表質問で、総理が言われた脱炭素に向けての取組について、質問させていただいたわけですが、もちろん、山口県が全国第2位といわれる第2次産業部門から出るCO2の多さというのは、大変なことだとは思いますが、(略)やはり、どうことができるのかというのは、どんどん議論していかなくてはならないのではないか、(と会派の中で話しています。)

そういった意見が基本の中で、私のほうは、ずっと山口県の大きな強みである、副生水素の排出量が全国トップレベルということ踏まえ—本当は「グリーンな水素」のほうがいいんでしょうけれども、今は過渡的なものとして、副生水素が全国一ある場所ということは、国全体に役立つものだと思っていますので—(略)先日、一般質問で取り上げさせていただきましたが、一番CO2を出さない形が困難だと言われている製鉄の関係、還元というプロセスの中で必ず石炭の火力が要ると言われていた分野でも、水素を使って製鉄をやるんだと、もうそういう目標を企業が掲げていますので、そういった動きを、国も県も市も力を合わせて全部応援して行って、そこにすごく大きな何兆円というお金が、国からも出てくる、世界中の企業からも出てくるでしょうから、それらをなるべく、この山口県に落としたい、という考えのもとに、大きく変わることを目指しています。

それから、風力とか太陽光とかの再生可能エネルギーについては、基本的には賛成ですけども、それは小規模分散型を私たちは目指したいと思っていますので、メガソーラーのようなもので、木々が切り倒されて土砂が流出するようなものについては、反対しているわけです。

小規模分散型の社会をつくるべきだというのは、北海道でも大きな停電がありましたので、そういうことにならないように、地域で小規模分散型でやっていく(べきだ、その)ためにも、水素はすごく役立つわけなので、この水素のいろんな能力、運ぶとか、貯めるとか、そういう機能を生かして、イノベーションをしていくことが、この山口県が、国全体を引っ張っていくいい例になると思います。

今まで、周南コンビナートで私たちは**すごく恩恵を受けながら育ってきたわけなんですけど、その企業自体が頑張りたいと、やっているわけですから、それを私たちが支えていくということは、大変重要だと思っています。**

【自民党会派の委員】

ありがとうございました。突然指名して申し訳なかったんですが、小規模分散型の再生可能エネルギーと言われましたが、それが産業に生きるには到底思われぬ。各家庭とか、どう言ったらいいんでしょうかね、小さな事業所とかであれば、それは可能であるんでしょうが、山口県が一番直面している問題ってというのは、いわゆるコンビナート群、それとかマツダさんもそうですね、大変な電力を使うところは、到底、風力、太陽光では安定しないとかね、いろんな状

況で使えないんだろうと思います。(略)

それと、大企業群がCO2をなくしていかなくてはならないという、もう当然、石炭では価格競争で勝っていたところが、価格競争で勝てなくなったということは、もう私も十分調べて聞いておりますが、これは、**与野党一丸となってやるという、それが特別委員会なんでしょうから、そこでぜひ山口県のためにいい結論を導き出してやっていただけるとありがたいなと思っています。**

【戸倉多香子委員】

はい。全体の方向性としては賛成です。小規模分散型のエネルギーといいましても、再生可能エネルギーだけじゃないわけですよ。そして私は、周南コンビナートのすぐそばで生まれて育ちましたので、今、フェードアウトされなければならないと言われている、石炭火力の問題も、実質は、SUB-Cとかいうんですかね、その中に入っている石炭火力でも、当面は、高効率の潜熱ですか、それを実際の蒸気のほうから出るエネルギーと合わせると、ほかの高効率の石炭火力とあまり変わらないということで、それであれば、もう少し長い間フェードアウトの時間を取ってもらおうとか、周南市では県のほうに要望を出していらっしゃるはずですので、そういったことを県議会としてもしっかり支えて、国のほうに伝えていただくということも、重要かと思っています。

それから、再生可能エネルギーだけではなく、水素はいろんなものにくっついて、いろんな力を発揮すると言われてますし、アンモニアを混焼するというようなことは、最近出てきたことですし、これから、いろんな技術が開発されますし、水素については、車だけの問題ではないということは、当然もう皆さんもご存知のとおりですから、今、世界の中で、水素の活用も進んでいて、日本がちょっと遅れているのではないかと、実証ばかりじゃなくて、実際にどんどん活用する実装が遅れているというような評価もあるぐらいですから、今後、そういった時代の動きを見据えて、私たちは取り組まないといけないと思っています。

(このあとも、やり取りが続きますが、省略して最後だけ)

【戸倉多香子委員】

そういったことも含めて、今回の特別委員会ですね、私も一生懸命いろんなことを考えて取り組みたいと思いますので、反対とかそういうことはありませんので、**同じ方向性だと思っています。よろしくお願ひしたいと思っています。**

以上、総務企画委員会の中で、突然ふられた質問と発言をご紹介しました。何の準備もないままの発言だったため、少し言葉足らずの部分もありますが、十分な発言時間をとっていただき、うれしく思っています。委員会終了後に、質問された県議は、過去にも加藤さん(わが会派の元県議)と憲法論議をしたものです、と話されていました。

山口県議会での活動状況等のご報告は以上ですが、ご意見やご質問等ございましたら、下記連絡先までご連絡ください。

